

「少年の主張」弟子屈大会

平成27年度第35回「少年の主張」弟子屈大会が5月24日に弟子屈町公民館で開催され町内各小中学校の児童生徒の代表が、目で見えて感じたことや体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの方々に語りかけました。最優秀賞には小学生の部で守屋真白さん(奥春別小学校5年)、中学生の部で浦山芽生さん(弟子屈中学校2年)が、それぞれ選ばれました。中学生の部最優秀賞の浦山さんは

7月29日に道立釧路高等技術専門学院で開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。

小学生の部 最優秀賞



私も輝きたい
奥春別小学校5年
守屋 真白さん

「もうできない。」
「わかんないな。」

私は、時々思ってしまうことがあります。学校で取り組んでいる一輪車。サドルはずしや片足乗りは、バランスをとるのがとても難しいのです。何度も何度も失敗が続くと、いらいらしてやめたくなくなってしまいます。

勉強でもありません。何回考えてもわからなかった算数の問題。文章問題の意味がわからない。どこが間違ったのかわからない。そんなときには、どうしてもがんばれず、やめてしまった経験が、私にはあります。

みなさんにはこんな経験は、ありませんか？

みなさんは、フィギュアスケートオリンピック金メダリスト、羽生選手を知っていますか。私は、羽生選手の姿から、「あきらめない」ということを、学びました。去年の中国大会の直前公式練習中のことです。中国の選手とはげしく

しようとし、リンクにたおれてしまいました。頭やあごをけがし、おきあがれなくなり、また、手あてをうけたあと、また、羽生選手がリンクに出てきました。ひどいけがなのに大会に出場するというのです。私は、その大会を見ていた時、「どうしてそんなにがんばるの？ 次のチャンスもあるのに。がんばりすぎじゃない。」と思いました。羽生選手の姿が来、リンクの中央に出てきました。ジャンプを八回飛ぶ予ていでした。でも、けがをしているからでしょう。普段のようなジャンプができずに何度も転び、何度も失敗してしまいました。でも羽生選手は演技をやめず、失敗しても立ち上がり、おどりをつづけました。そして、最後まで演技を続けたのです。

その姿を見て、私は感動しました。私だったら、そこまでがんばることができたかわかりません。

「もうできない。」
という思いが、きつと出てきてしまっ

たと思います。あきらめることなくがんばっていた羽生選手の姿。その姿は、私にはとてもまぶしく、輝いて見えました。

身近な教室にも、そんな姿がありました。私の学校には、自分の思いを全校のみんなや家族、地域の人々に発表する、意見発表会があります。そこで、私のクラスメートは、野球や、バレーボール、サツ

カーなどの実体験をもとにして、どれだけの点をとられてもあきらめなければ勝てるということ、つらいことがあっても、最後までがんばるのが大切だということ、自信を持って話していました。

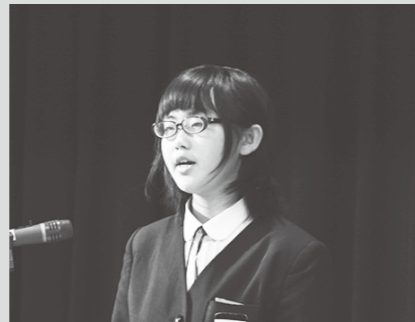
羽生選手とクラス友達の話には、共通点があると思います。それは、自分が楽しいと思うこと、大好きなことをがんばっているということ。一度失敗しただけで、「できない」「これは、自分には合わない」と、かたてに決めつけないで、挑戦することを続けていたからこそ、大好きなことに出会ったのです、がんばれること、自分が輝けることに出会ったのです。

だから私も、「できない」と、決めつけないで何度もやるようにします。私も、自分が輝けることを見つけないと思います。私の学校では、伝統を引き継いで、獅子舞活動を続けています。私は、今、しっぽに入っていますが、来年はいよいよ、かしらに挑戦します。重たい獅子舞のかしらを使って曲に合わせておどるのは、とても疲れると、先輩も話していました。それでも、私は、最初は間違っただけ、挑戦したいと思っています。

みなさんも、やってきた事を一度であきらめないでください。努力してあきらめなければ、挑戦を続けていけば、きっと大好きなことに出会えます。

私は努力を続けます。挑戦を続けます。そしていつか、私も、羽生選手のように、大好きなことで輝ける、そんな人になりたいです。

中学生の部 最優秀賞



不思議な力
弟子屈中学校2年
浦山 芽生さん

「おはようございます。」この言葉は、誰もが知っている言葉です。私も毎日使っています。

私は、徒歩で通学していますが、学校に通学する間に様々な人に出会います。散歩している人や、ゴミ出しをしている人。通勤している人が、私とすれ違う時に決まって、「おはよう。」と声をかけてくれます。それだけではなく、「暑いけど頑張ってるね。いつてらっしゃい。」と言ってくれる人もいます。あいさつをすると、眠い朝でもスッキリするし、あいさつを返してもらうと元気が出てきます。あいさつには不思議な力があります。

ある日、いつもと同じように地域のおじさんにあいさつをしたところ、何の返事もなく、少し嫌な思いをしたことがありました。目もあつたのに、おじさんは何も言わないで去って行きました。「私があることに気づいているのに、無視するなんて嫌な感じ。」と、一緒にいた友達に言うと、「少し声が小さかったんじゃない？」と言われまし

ない？」と言われました。数カ月後、わたしはまたそのおじさんに会いまして。今回はあいさつを返してくれるか心配でしたが、「おはようございます。」と、前回より大きな声を出して言いました。すると、「おはよう。」と笑顔で返してくれました。私は嬉しくて自然と笑顔になりました。それまで、声の大きさを気にしたことはありませんでしたが、この経験から、相手にしっかり届くあいさつができるよう心がけるようになりました。

先日、部活終わりにいつものようにすれ違った地域の方にあいさつしたところ、「礼儀正しいね。中学生にあいさつされたのは初めてだよ。素敵だね。」と言ってもらいました。また、違う日にもあいさつをしたら、「この前にもあいさつしてくれたよね。いつも元気なあいさつがありがとう。」と言われ、私はとても嬉しくなりました。私のあいさつを「ステキ！」と認めてくれ、「ありがとう。」と褒めてもらえたからです。そのことで、「これからも相手に喜んでもらえるようなあいさつをしていこう！」と思いました。

あいさつをするのが恥ずかしいとか、面倒だという人がたまにいます。廊下ですれ違う友人にあいさつをする時にも、小さな声で返事をする人や、会釈をするだけの人がいます。だから、そのあいさつが明るく、素敵なものだったら、周りの人もより良い気分になるのではないのでしょうか。

素敵なあいさつをみんなでしたら、社会も明るく、より暮らしくなり、人の輪や、笑顔も生まれてきます。だからこそ、私は相手のことを考えた、良いあいさつをしていきたいです。みなさんも、地域の人や友人、家族に良いあいさつをしていきましょ。

中学生の部 審査結果(敬称略)



- | | |
|-------|--------------------------------|
| 最優秀賞 | 「不思議な力」 (弟子屈中2年 浦山 芽生) |
| 優秀賞 | 「言葉の力」 (川湯中1年 長谷川 晃生) |
| 優良賞 | 「自分が変わる第一歩」 (弟子屈中2年 西端 愛香) |
| 参加奨励賞 | 「あいさつ大切さ」 (弟子屈中1年 嶋津 希穂) |
| 参加奨励賞 | 「勇気×夢=実現」 (弟子屈中1年 阿部 宏紀) |
| 参加奨励賞 | 「身近な人の存在」 (川湯中3年 中嶋 菜月) |
| 参加奨励賞 | 「進路について」 (弟子屈中3年 本間 春輝) |
| 参加奨励賞 | 「私の大切な家族」 (弟子屈中3年 須藤 野愛) |
| 参加奨励賞 | 「『常識』のちがいがいい」 (川湯中2年 定木 千周) |

小学生の部 審査結果(敬称略)



- | | |
|-------|---------------------------------|
| 最優秀賞 | 「私も輝きたい」 (奥春別小5年 守屋 真白) |
| 優秀賞 | 「今を生きることの大切さ」 (弟子屈小6年 宮田 響夏) |
| 優良賞 | 「夢への第一歩」 (川湯小6年 齋藤 力) |
| 参加奨励賞 | 「ぼくの大切な家族」 (和琴小5年 土田 渉介) |
| 参加奨励賞 | 「ゲームのいろいろ」 (美留和小6年 中村 諒) |
| 参加奨励賞 | 「いやだを乗り越えて」 (弟子屈小6年 辻谷 羽未) |